

2面 中型いか釣り漁船出港 〈道南/八戸〉

3面 練習船「福島丸」出港 〈小名浜〉

遠洋マグロはえ縄漁船
「第8昭福丸」出港 〈気仙沼〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3056号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2024年(令和6年)
6月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒104-0053 東京都中央区
晴海4丁目7番28号
ホテルマリナーズコート東京内
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-5410-8337
定価 1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

第79年度 新任執行部員研修会 新たに執行部員となった10人が参加

研修の成果を組合活動で発揮

6月3日〜4日の2日間、ホテルマリナーズコート東京において、第79年度新任執行部員研修会を開催した。今回は、新たに執行部員となった10人が参加し、執行部員としての資質を向上させ、これから組合員のための執行活動に取り組むべく、組合活動の基礎を学んだ。



研修初日

研修初日は、開会式に続く最初の講義では「総務部の活動」として、木村俊昭総務部副部長が講師を務め、規約・規則・規定に関し、業務や機関会議、訪船や交渉、協定書、確認書など執行業務に必要な用語の説明と総務部の業務内容のほか、個人情報保護について説明した。

次に「奨学金制度運営管理部の活動」として、榎田志奨学制度運営管理部部長代理が講師を務め、全日本海員組合奨学金の貸与額や返還方法など、制度について説明し、午前の講義を終了した。

午後からは、株式会社社員教育研究所から高田吉章講師を招き「ビジネス・コミュニケーション」として、コミュニケーションの目的や方法などの講義を受けた。

次に「労働債権・労使紛争等」では、田川総合法律事務所黒田直行弁護士を外部講師として招き、実例をもとに船舶先取特権や労使紛争などについて講義を受け、研修生からは会社倒産前はどういうふうな兆があるのか、交渉時に決算書など会社経営状況がわかる資料を求めることはできるのかなどの質問が出された。続いて「水産部の活動」として、釜石隆志水産部専任部長が講師を務め、水産部門の主な組織形成や漁船漁業・養殖業における技能実習制度などについて説明し、初日の講義を終えた。

研修2日目

研修2日目の午前中は「広報室の活動」として、中本伸一広報室副室長が講師を務め、船員しんぶんや月刊「海員」、記事の書き方などについて説明した。次に「国内部の活動」では井上寛信国内部

副部長補が講師を務め、国内部門を取り巻く諸課題やカボタージュ規制について説明し、午前の講義を終了した。午後は、株式会社インソーから江連恵美講師を招き「ビジネスマナー」として、あいさつの仕方や電話対応などの講義を受けた。次に「総合政策部の活動」では、遠藤節総合政策部長が講師を務め、後継者の確保・育成や船員税制など主要な政策課題について説明した。

最後に修了式が行われ、小川浩一九州福岡地方支部在籍専任執行部員が研修生代表として齋藤洋中央執行委員から修了証書を受け取り、第79年度新任執行部員研修会を終了した。

ビジネスマナーの演習



講義のようす



派遣海賊対処行動

第48次派遣部隊の出国行事

— 守ってくれてありがとう —



ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため、自衛隊および海上保安庁が海賊対処活動に従事している。6月3日、海上自衛隊呉地方総監部において、派遣海賊対処行動水上部隊(48次)のソマリア沖・アデン湾に向けた出国行事が開催され、本組合から池谷義之国際局長をはじめ外航職場委員2人を含む計4人が出席した。

第48次派遣部隊の海賊対処行動には、第4護衛隊の「さみだれ」が任務に就いた。本船には海上保安官8人を含む自衛隊乗組員約200人が乗船した。

出国行事では、齋藤聡自衛艦隊司令官から「国際情勢は非常に流動的で派遣先の海域では不測の事態が起きることも否定できないが、それぞれ

の持ち場で任務の完遂に取り組んでほしい」と訓示が述べられた後、来賓紹介の際には、船員とその家族を代表して池谷義之国際局長から、護衛艦乗組員の守護活動に対する感謝の意を伝えた。

護衛艦が出港する際には、派遣隊員の家族など多くの関係者が見守るなか、長期間護衛任務に就く乗組員に対して「ありがとう! 自衛隊海上保安庁」の横断幕を広げて見送った。

ソマリア沖・アデン湾の海域はアジアとヨーロッパを結び、昨年においては約1800隻の日本関係船舶が航行している、海上輸送の要所となっている。派遣海賊対処水上部隊は、海賊対処法に基づき、護衛艦乗組員と海上保安官で編成され、この海域を航行する船舶の護衛を実施するとともに、広大な海域における海賊対処を効果的に行うため、派遣海賊対処行動航空隊を現地に派遣して海賊の監視警戒を実施している。

同海域におけるこれまでの活動により、2009年(平成21年)に200件以上あった海賊事件が、2015年(平成27年)にはついに0件となり、その後は若干の増減はあるものの状況は沈静化しつつあった。しかしながら2023年(令和5年)11月中旬に発生した日本船社が運航する一般商船に対する武装組織の拿捕事件以降、ソマリア沖・アデン湾では武装した海賊による襲撃事件が再発しており、海賊等事件の早期根絶に向けた継続的な取り組みが求められている状況にある。

イカのシーズン到来 安全航海・安全操業・大漁を祈る

第八十五興福丸



第六十五盛漁丸



全国発信記事

道南支部
＝発信

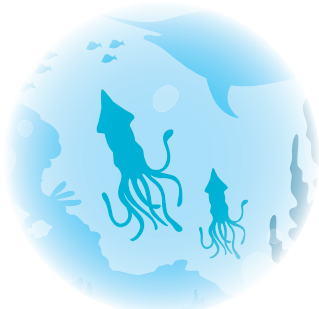
函館港から 3隻が出港

中型いか釣り漁船

5月18日、函館港から北太平洋アカイカ漁のため、中型いか釣り漁船の第七十八寿々丸（寿々丸漁業）、第八十五興福丸（八田漁業・東北地方支部担当）が出港した。また5月21日には第六十五盛漁丸（小原漁業部）が出港し、多くの市場関係者と乗組員の家族が見送り、安全航海・安全操業を祈った。

北太平洋の北緯40度、西経175度付近の漁場へは、約10日間をかけて航走し、漁獲様が順調であれば、7月下旬に初水揚げの予定となる。アカイカ漁は、この時期に八戸港からも出漁しており、スルメイカの不漁が続く中、近年はアカイカ漁が安定的な漁獲量に推移しており、第七十八寿々丸・菊地耕二漁労長は「漁場が遠いことから後戻りはできない。万全を期

して漁に励みたい」と意気込みを語った。これから、日本海スルメイカ漁も順次出漁する。新鮮なイカの水揚げが期待されている。



第七十八寿々丸



全国発信記事

八戸支部
＝発信

八戸港から 16隻が出港

中型いか釣り漁船



八戸地区の中型いか釣り漁船は、先陣を切って5月15日に2隻、18日には14隻がムラサキイカ漁のため、西経漁場に向け出港した。

出港セレモニーでは、景気付けの和太鼓の演奏が行われ、出港を大いに盛り上げた。また、乗組員の家族や関係者が集まり、記念撮影が行われるなど賑やかな雰囲気包まれた。

各船は正午を過ぎると汽笛を鳴らし、五色のテープをなびかせながら出港、見送りに来た家族は岸壁から「いつてらっしゃい」「気をつけて」などと声を掛け見送った。

日付変更線付近の漁場まで約10日間航行し、2カ月間程度操業を行い、7月下旬に帰港する予定となっている。



2024年6月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第39期全国委員の当選告示

一、2024年6月5日付で告示した第39期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

《地方区・地方単位》

04 関西

（補充定員1名・立候補者1名）
当選人 宮本 祐介 名古屋支部 在籍専従執行部員

《企業区・企業単位》

080

中部地区沿海Bグループ

（補充定員1名・立候補者1名）
当選人 伊東 良和 志摩マリンレジャー 船長

以上

全国発信記事

小名浜
支部
＝発信

練習船「福島丸」出港 小名浜港から遠洋航海へ



5月16日に小名浜港で、練習船「福島丸」(665総トン)の出港式が執り行われた。「福島丸」は、いわき市にある福島県立小名浜海星高等学校の練習船。翌17日、実習生15人は「福島丸」に乗り、太平洋海域における遠洋航海実習に出発した。

小名浜海星高等学校

2021年4月、小名浜高等学校といわき海星高等学校が統合し、普通科・商業科・水産科を有する職業教育推進校として開校した。

水産科には▽海技士(航海)などの資格取得に向けて学習していく海洋科▽水産物の製造・販売に関する学習を通じて、HACCP基本技能検定などの資格を取得できる食品システム科▽ドローンなどのIoT機器を活用して無線技術を実践的に学習し、無線通信士や無線技士などの資格を取得できる情報通信科▽船

出港式の翌日に出港

5月16日の出港式当日、「福島丸」に専攻科海洋科1・2年生10人、専攻科機関科2年生5人の計15人が乗り

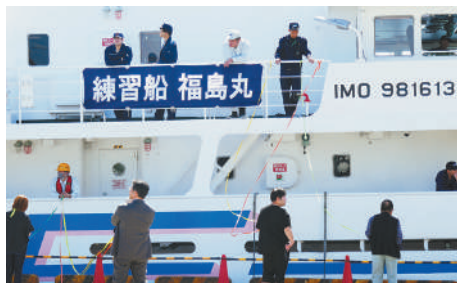
用機関や機械設計に関する学習を通じて、海技士(機関)などの資格を取得できる海洋工学科の4学科がある。

また、小名浜海星高等学校は専攻科が設置されており、専攻科には海洋・無線通信・機関の3つの学科がある。それぞれの卒業生は、学校での学びを経て高度な知識と技術を習得した即戦力として、業界で活躍している。

見送りに訪れた関係者や家族は、実習生と短い会話を交わしながら、共に航海の安全を願っていた。

式では、中沢春雄副校長が「二つのチームとして実習に臨んでほしい」とあいさつ。実習生代表の橋本祐月さんが「仲間と協力して無事に戻ってくる」と意気込みを述べた。

本船は天候不良のため出港を見送ったが、翌17日9時には小名浜港を出港した。



全国発信記事

気仙沼
支部
＝発信

遠洋マグロ「第8昭福丸」 はえ縄漁船 気仙沼港出港



6月2日に気仙沼港から、株式会社白福本店の遠洋マグロはえ縄漁船「第8昭福丸」(409総トン)が、ミナミマグロ漁のため出港した。

船内見学会

5月16・17日、気仙沼市内の小中学校に今年度赴任した教職員30人ほどが「第8昭福丸」の船内を見学した。

市の教育委員会が、水産業に親しみを持ってもらおうと企画。同委員会は別日に、小学生向けの企画も用意した。

参加した教職員は設備を見たり、船上生活について説明を受けたりして、地元産業への理解を深めていた。「子どもたちに関心を持ってもらえるよう、伝えていきたい」と語った。

出港式

6月2日の「第8昭福丸」出港式には、乗組員の家族や関係者、約200人が見送りに駆け付けた。

式では小松正文漁労長が「見送り、ありがとう。乗組員全員で力を合わせ、ミナミマグロ漁をしてくる。いつてきます!」と、力強くあいさつした。見送る人々から「気をつけて」「マグロをたくさんとってきてね」などと声が掛けられる中、本船は出港した。インド洋で10カ月ほど操業する予定。

「遠洋マグロはえ縄漁業」

1200総トン以上の動力漁船が、浮きはえ縄漁具を使用してマグロなどを漁獲する。国内の他、ラスパルマスやケープタウンなどの外地を基地として、半年から一年以上の長期航海を行う。

社会的役割として▽刺身用天然マグロの安定供給▽雇用機会の提供▽関連産業を含めた地域経済への貢献▽太平洋洋島しょ国などへの入漁を通じた漁業協力による国際的貢献―を担っている。

「ミナミマグロ操業の特徴」

ミナミマグロは主に南緯

30度以南に分布し、タスマン沖、南インド沖、ケープ沖の3つの漁場が存在する。

資源管理のため、国別に漁獲枠が割り当てられている。漁獲したミナミマグロには、一尾ずつ固有の番号のタグを付けて、流通時まで管理する必要があるなど、厳格な資源管理措置が取られている。その措置が功を奏し、近年は資源量の増加が見られ、漁獲枠は増加傾向にある。

ミナミマグロ漁場は「吠える40度」と呼ばれ、荒天や暴風が多い。また操業中は水揚高がピークを迎えた。

「マグロと気仙沼」

気仙沼にはリアス式海岸の波静かな天然の良港に加え、造船所・機械鉄鋼・無線・漁具など、さまざまな関連業者が多く存在する。そのような恵まれた環境で遠洋マグロはえ縄漁業は、古くから盛んに営まれてきた。

気仙沼港は遠洋マグロ漁業の一大基地として、地元のみならず全国のマグロ船に利用される。平成の初めには漁船の隻数、漁獲量、水揚高がピークを迎えた。

あいさつする小松正文漁労長



中央は漢那太作九州関門地方支部長



支部屋上で 金毘羅安全祈願祭 5年ぶりの通常開催

全国発信記事

九州関門
地方支部
＝発信

5月28日、あいにくの雨となつたが、九州関門地方支部の屋上に祀られている金毘羅宮において、金毘羅安全祈願祭を開催した。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、中止あるいは縮小し執り行ってきたが、今年は実に5年ぶりとなる関係各社を集めた通常通りの開催となった。

祈願祭には、全日本海員組合の政治参与・海事関係者・行政機関・関係各社代表者の総勢40人が参列した。

はじめに、主催者を代表して漢那太作九州関門地方支部長があいさつした後、下関金毘羅宮の宮司からご祈禱を賜り、参列者の代表者が順に玉串奉奠を行い、最後は参列者全員で航行安全ならびに海運業界のさらなる発展を祈願し、終了した。

金毘羅と金刀比羅
「金毘羅」大権現は香川県仲多度郡琴平町に鎮座する「金刀比羅」宮の旧称。

金毘羅とは本来、インドのガンジス川にすむワニを神格化した水神の名。金毘羅が海神、水神として信仰され、讃岐象頭山に鎮座の神と神仏習合し、金毘羅大権現と称されるようになった。

金毘羅大権現は、全国的な航路の発展とともに航海者の信心を集めるようになり、中世以降、全国に分祀された。明治元(1868)年、神仏習合が廃止されると、金毘羅大権現は琴平神社となり、同年7月には金刀比羅宮と改称し、現在に至っている。



奉納プロペラ

本殿

金刀比羅宮

海員親睦ゴルフ大会開催 仲間とプレー満喫

全国発信記事

高松支部
＝発信

5月24日、第32回海員親睦ゴルフ大会を、高松市の鮎滝カントリークラブで開催した。

当日は天候に恵まれ、組合員やOB、海事関係者など総勢22人が参加して開会。

開会式では主催者を代表し、遊佐清和高松支部長が「関係各位の協力があって今年度も大会を開催できた。あらためて感謝するとともに、何より参加者の皆さんに、楽しんでプレーしてほしい」とあいさつして、大会が

始まった。

当日は、日頃なかなか話せない仲間と親睦を深めるいい機会となった。参加者は、心地よい天気のもと和やかにラウンドし、軽快にドライバークラブの音を響かせていた。

仲間と一緒にプレーを満喫した後は、ダブルペリア方式で順位を決定。瀬戸大橋総合開発株式会社の泉谷鉄男さんが、グロス89、ネット72・2で優勝を飾った。

表彰式で泉谷さんは「今日の天候と、同じ組の皆さんのおかげで優勝でき、感謝している」と語り、参加者から盛大な拍手が送られた。

最後に遊佐高松支部長が「今年度もスポーツイベントが開催できたことに感謝するとともに、今後もさまざまな形で、皆さんと時間を共有することができればと考えている。引き続きのご協力とご支援をお願いする」とあいさつし、第32回海員親睦ゴルフ大会は終了した。



優勝は瀬戸大橋総合開発の 泉谷鉄男さん

左が泉谷さん



機関紙に 投稿しませんか

組合員(家族)の皆さんへ

「船員しんぶん」は組合員(家族)の皆さまからの原稿を随時受付中。ぜひご応募を。採用された方には薄謝進呈。

募集要項

▽募集期間 毎月15日頃まで

▽作品テーマ 「わたしとひとごと」で身の回りのことや本紙の感想、「みんなのイラスト」で季節の絵葉書や好きなキャラクターのイラスト、「俳句・短歌・川柳」でふと思いついたネタや秘蔵のネタなど、自由

▽作品仕様 葉書サイズで原則縦書き

▽応募資格 組合員または組合員家族であること

▽応募方法 応募作品の裏に①住所②氏名(ペンネーム希望の場合はペンネーム)、ご家族の場合は組合員ご本人様のお名前も併記 ③会社名を記入し、次の宛先に郵送する

〒104-0053

東京都中央区晴海4-7-28

ホテルマリナーズコート東京内

全日本海員組合広報室

▽応募上の注意 応募は未発表、未公開で、応募者のオリジナル作品に限る。必要事項の記入がないもの、第三者を誹謗中傷するものなどは、受付できない